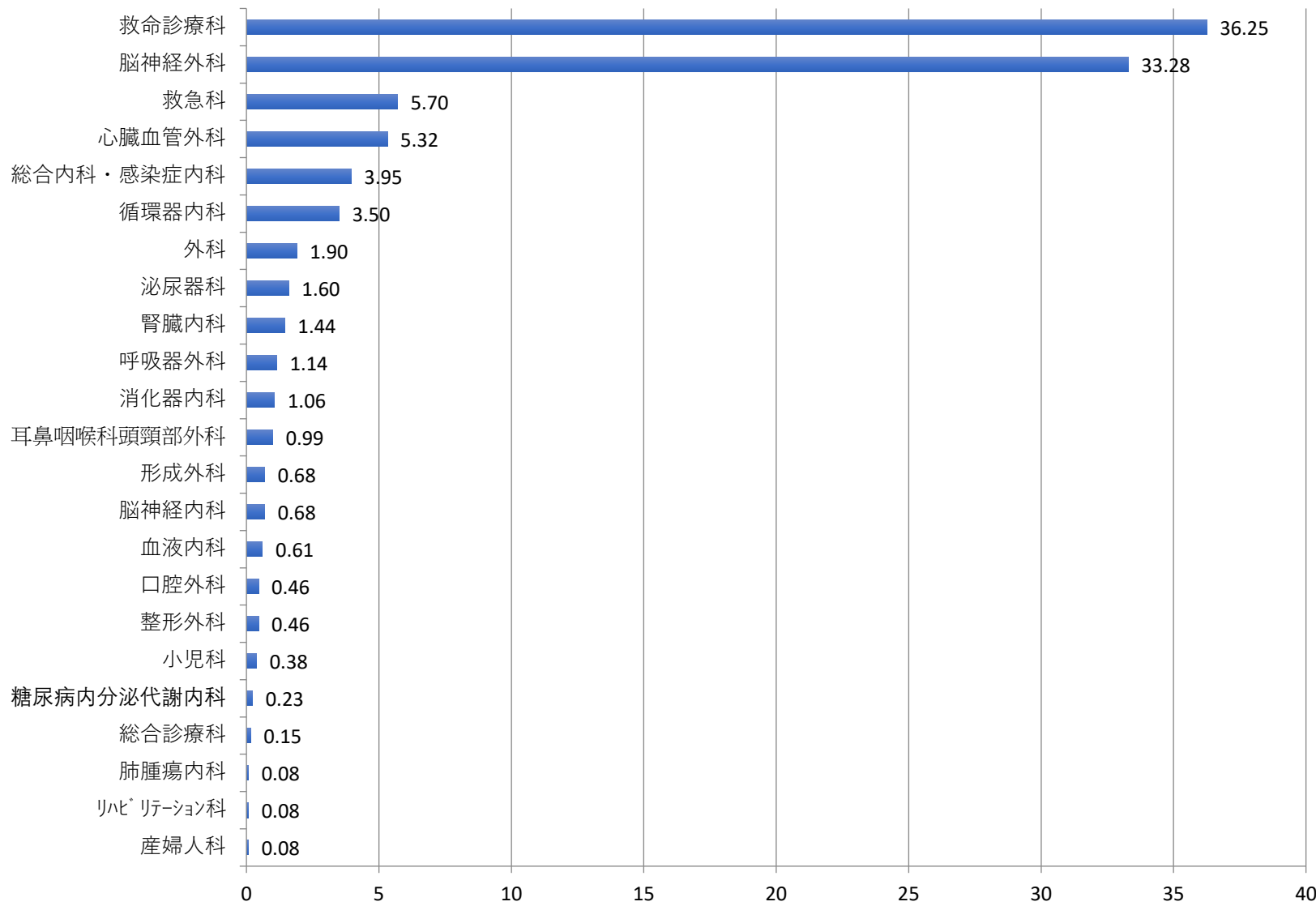


摂食嚥下支援チームの取り組み

早期から多岐にわたる診療科・疾患への関わり

2020年度 嚥下評価 依頼科別介入数の割合 (%)



脳血管疾患，神経変性疾患，神経筋疾患，自己免疫疾患，腫瘍，外傷，呼吸器疾患，サルコペニア，加齢さど，様々な疾患により嚥下障害を有する方に対して，発症早期・抜管直後より介入し，摂食嚥下機能の改善につとめています。

チームアプローチ（摂食嚥下支援チーム）

食べる時の注意点

様 月 日より

姿勢 _____ 度(____側臥位・正面)・座位
※頸部を軽度前屈位にしましょう！

食形態 主食： _____
 副食： _____

水分 トロみなし・弱・強・アツユル

飲み物	内容量	トロミ形態					
		強い			弱い		
お茶・水	100ml	スプーン量 すり切り	混ぜ時間 15秒	待ち時間 2分	スプーン量 すり切り	混ぜ時間 15秒	待ち時間 2分

※混ぜ方は タテ に混ぜてください！！

注意点 自立・見守り・介助

空嚥下・頸部回旋・交互嚥下()
 呼吸コントロール・顎引き・一口量()

摂食機能療法 有 無 記入者： _____

ベッドサイド掲示物



摂食嚥下支援チームでは，医師，看護師，薬剤師，管理栄養士，PT，OT，ST など，多職種と連携し，摂食嚥下障害に対する評価・訓練を行っています。食事の際の「食事形態」・「姿勢」・「注意点」等の情報を共有するために【食べる時の注意点】を掲示しています。

食べるためのアプローチ

ベッドサイドでの摂食嚥下機能の評価に加え、必要に応じて嚥下造影検査（VF）、嚥下内視鏡検査（VE）を行い、詳しい評価を行っています。



嚥下造影検査

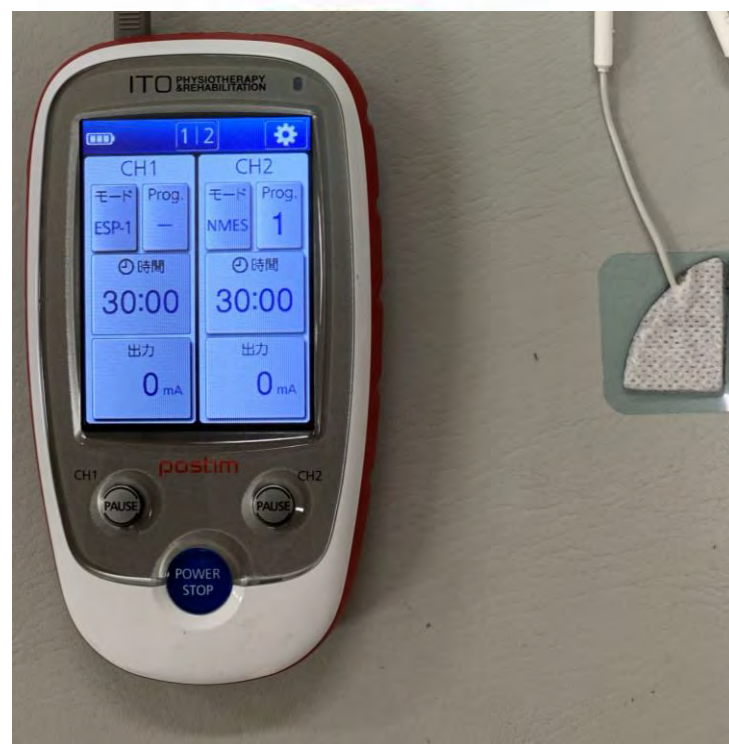


嚥下内視鏡検査

電気治療機器の活用



ジェントルスティム



イトーpostim

従来の嚥下訓練に加え、嚥下筋に対する低周波電気刺激機器や咽頭喉頭の感覚神経に対する干渉波刺激機器を用い、嚥下機能の改善をはかっています。

バイオフィードバック訓練



舌圧測定器



表面筋電計

嚥下運動に関連する筋肉の筋電や舌の圧力を数値や光などで患者さんにフィードバックし、訓練を通じて嚥下機能の改善をはかっています。